

| | |
|------|----------------|
| 日程 | 平成29年5月12日(金) |
| 視察先 | 愛知県長久手市 |
| 視察内容 | 高齢者の外出促進事業について |

概要 長久手市は住みよさランキングで常に上位であり、民間アンケートにおいても評価の高い自治体である。人口増加率・世帯増加率が高く、財政力もある。
「幸福度の高いまち＝日本一の福祉のまち」を目指し、政策の基本理念を掲げている。

視察内容 ①高齢者の外出促進事業について
・対象者は市内在住の65以上の市民
・年度に1回マナカチャージ1000円分交付
・また運転免許自主返納者にマナカチャージ5000円分交付
H25年3519枚・H26年3576枚・H27年4151枚・H28年5015枚と年々増加。
H28年は免許自主返納が97名分を含む。
H20年リニモカードからのスタートであったが、IC乗車券マナカがリニモで使えるようになった事でH28年よりマナカチャージ券の交付に。



②その他高齢者外出促進を目的とする事業について
コミュニティバスは高齢者・障がい者・中学生以下は無料。高齢者対象のカードにはバスだけでなく、市内の施設の優待や文化施設の無料入場(回数制限あり)等の外出目的となるサービスを行っている。

課題 ・高齢者の増加に伴い、財政的な視点からマナカチャージ券の交付の事業見直しも必要。市民からは交付額の増額や名古屋市の敬老パスのような乗り放題の要望、また自宅から駅までのタクシーなどの移動補助の要望もある。
・市内においてはコミュニティバスの無料化だが、名古屋への移動も多い地域であるのでマナカチャージは利用範囲がひろがり高評価ではある。(名鉄バス・名古屋市営地下鉄等)

所感 ・マナカチャージ券に関して、目に見える財政負担が多く発生し、長久手市も見直しが必要な時期がきているとの話は納得できた。いわゆる金券なので本当に受け取った高齢者が外出促進のために高齢者自身が使っているかどうかの検証もしにくい。
自らが外出したくなる仕組みを作り、外出の際ではコミュニティバスを利用してもらう。外出には三つの分類が考えられる。

①病院・買い物など生活の基盤として必要不可欠な外出

②家族行事・お墓参りなど生きる意義に関わる外出

③旅行・趣味・娯楽など人生をより豊かに充実するための外出

これらの外出目的を考え、分析し、外出促進事業を取り組む必要がある。

高齢者のQOLを向上を目的とし、外出促進事業を位置つけて事業を考えたい。

また外出しない高齢者がなりうるリスクからを認識し、対策を行うことも重要である。

対策として本市の健康施策は優れているので、それをもっと広くPRしていき、日々の生活の中で積み重ねて実践してもらえようような取り組みをしていきたい。

積極的に外へ出かけて閉じこもりを予防し健康長寿を目指してもらうためのきっかけとなるような外出促進事業計画を計画する。

様々な高齢者の方の意見・行動を分析し、さらなる関係各課が連携を強化が必要と感じた。本市には文化遺産・文化施設等が

数多く存在するので、各館の平日利用券配布、ボランティア参加に対するインセンティブ、

シルバー人材において職種の充実など、既存の施設や取り組みをもっと知ってもらう事が

本市の外出促進事業の骨子となると感じた。

高齢者福祉の観点だけでなく、まちづくり・農業・市民協働・地域再生などの分野で活躍してもらうためにも、総合的な計画が必要と感じた。

